

1 全日制課程について

第3通学区は、南北に広い通学区であり、地区により中学校卒業生数や推定募集学級数の推移の状況が異なる。通学区全体としては、中学校卒業生数が平成31年には平成17年と比べて9割程度となり、募集学級数は15学級程度減少すると推測されるため、地勢的条件を考慮しつつ、質の高い教育を提供していく観点から、県立高校の再編整備が必要であると考えられる。

諏訪市、岡谷市、茅野市周辺では、中学校卒業生数の減少率が低く、当面現状の校数を維持していくことが適切と考えられる。

上伊那地域における募集学級は、平成31年には平成17年と比べ6学級程度減少することが推定されることから、この地域においては再編整備が必要となる。そこで、箕輪工業高校の全日制課程の募集を停止し、第3通学区の多部制・単位制高校に転換することが候補として考えられる。箕輪工業高校は、第3通学区のほぼ中央に位置し、比較的広範囲から通学が可能であるとともに、現有の施設設備を活用して、上伊那の産業界や地域との連携・協力を行うことにより魅力ある教育課程の編成や体験的な教育を展開する高校づくりが期待できる。

また、駒ヶ根市には、現在、赤穂高校と駒ヶ根工業高校が配置されているが、生徒数の減少などを考慮して2校を統合し、両校が培ってきた教育資源を活用して、多彩な学びの選択を可能とする新たな高校として設置することが考えられる。その場合、駒ヶ根工業高校の保有する施設設備等の有効活用を図りながら、駒ヶ根工業高校を赤穂高校に統合することが候補としてあげられる。

下伊那地域における募集学級は、現在に比べ平成31年度には7学級程度減少することが推定されることから、この地域においても再編整備が必要となる。そこで、飯田市内で比較的近距离にある飯田長姫高校と下伊那農業高校を統合し、新たな高校を設置することが考えられる。その際、校地の広い下伊那農業高校の施設設備を統合後の校舎・校地として整備していくことが候補としてあげられる。また、現在、第3通学区と隣接する塩尻市に、総合学科の塩尻志学館高校が設置されていることから、地理的に多くの生徒が総合学科を選択できるように配慮すると、第3通学区では下伊那地域のこの新たな高校を、総合学科高校の候補とすることが適切であると考えられる。飯田長姫高校と下伊那農業高校の専門教育に関わる教育資源を活かした、魅力ある総合学科となることが期待できる。

2 定時制・通信制課程について

多部制・単位制高校を箕輪工業高校に設置した場合、比較的近距离にある上伊那農業高校の定時制は、多部制・単位制高校に統合し、多様な生徒のニーズに応えられるような教育を展開することが考えられる。

また、下伊那地域における定時制の充実を図るため、飯田長姫高校と下伊那農業高校を統合した新たな学校に定時制課程を設置し、飯田工業高校の定時制を統合して、多様な生徒のニーズに応えることができる、柔軟な教育を行う定時制としていくことが考えられる。

第3通学区の多部制・単位制高校と各定時制高校は、相互に連携をとって教育を展開することや、第4通学区に設置される中南信の通信制課程中心校のスクーリング会場としても利用していくことが考えられる。

県立高校再編整備候補案について

(8 / 2 9 第3通学区高校改革プラン推進委員会提出資料から)

【近隣校の状況】

- ・ 飯田長姫高校の工業科を飯田工業高校へ統合するなど、飯田工業高校の専門教育の充実を図っていく。